



葛飾北斎「浮世画譜」より

平成24年度 山口県文書館古文書実践講座テキスト

山口町人安部氏の奥州旅日記

㊤ 「あつまにき」

No.6

終

あつてはるく...
すくなく...
乃つて...
運送系も...
一

一 九月...
て三月...
方...
一甲...
ま...
ある...
一

す...
か...
田...
入...
り...
又...
か...
か...
か...
か...
か...
か...

友よりうらやましい事言はせ給ふに
川口岩倉の村に
後身あり又給ひ
念ふに
申すに
入は

一 元二の
あり

少一
後
山
高徒院
又
又
の
い

道のたの回りの傍子 空久の山ありありや
ハ神比る場海山は 以末田井の儀
鶴つる甲の千大可たるるの思一編のうを
其本はたむゆるらんやうの

歳時一も 鶴子の移を余の
ゆけしとらよる女余の鶴ありあり切
ひとばはら下としんたんやうと入て可表
ありとましくは又多井はく入て脚地
ありとましくは又多井はく入て脚地

をまねたもちよ大踏宮五神社
種様ありた神ありと怪元有
ゆねたもちよ鶴多宮ありと五
つるもたよる大下は鶴ありと
脚ありとるるうしんたんやうと
廊送りありとるるうしんたんやうと
今宮種朝社にまつとるるうしんたんやうと
又とるるうしんたんやうと
おまつとるるうしんたんやうと
ありとるるうしんたんやうと

夏子の虎弁天をよめるのつやを志願山
の山王社あり山門
後子にえたる侍持橋を
後川はよむといひ申す
ふしぬも志願宮御社又法親王御館と
流多きやうん

一 元七日つとよめや西耶ちをす
川毎残さしてとれは備の耶殿
神のすまひと又かまふとつた

んを教の鶴もなる
はーやうの隅田川

冷さをとらふれは水のすむ
あはらうのりてみちの稲音社
又秘意の秘りつて
あふんし待乳山を
といふ言の秘り
あふんし待乳山を
あふんし待乳山を
あふんし待乳山を

隅田川吹く風の音は我々の此里よりあつた
又毎朝の風は西風なりと云ふ

一 八日 早稲の館ありてついでに
早稲の館ありてついでに

冷しやうと云ふは
冷しやうと云ふは

一 方れは三四日
方れは三四日

るを致しよは
るを致しよは

わすれぬと云ふ
わすれぬと云ふ

一 亦日 辰子より
亦日 辰子より

一 八月朔日
八月朔日

